

夏の蔵王で COOL & HEAL

夏は、暑い。

当たり前のことだけど、暑くてキラキラした夏を、楽しむにはちょっと暑すぎるここ最近。

山形蔵王の雪景色が恋しい、と思ったところで、ふと考えた。

そういえば、夏の蔵王って、どんなところなのだろうか。

気になって調べてみると、冬とは違う魅力にあふれた一面を見つけた。

そうと決まれば、目的は北にあり。今年の夏は、一路山形蔵王を目指すことにした。

雪山を踏んで歩くのとは違う、生命を感じる季節。

この時期蔵王は、緑に輝く。知っていたようで、知らなかった絶景。

ふと沸いた気持ちに身を委ねた旅。

目の前にひろがるのは、蔵王山。「山岳信仰」が根付くこの場所。

「蔵王」の名前も人々が大切にしてきた仏様が由来だそう。

清く涼やかな空気が、確かに気分を凜とさせてくれる。

一面の雪景色はないけれど、ゆっくりとロープウェイで登る贅沢な時間がある。

夏の山は、見下ろして眺めるほどに、新しい発見がある。

続いて、かの有名な御釜を目指す。駅からは結構な道のり。夏のコンクリートを歩くのはあんなにも大変なのに、ここで流す汗が、妙に心地いい。

エメラルドグリーンのお釜は、地球の営みが生み出した不思議な絶景。吸い込まれそうなほど神秘的で、それでいて爽やかな湖面。一度は見えておきたい光景が広がっていた。

ところ変わって、蔵王の中央高原にある、ドッコ沼。

枯れることのない湧水を眺めていると、木々をすり抜け、水面を微かに揺らした爽やかな風が届く。

この風や水はどこからきているのだろう、そんなことに想いを巡らす。

山道を歩いて流した汗は、蔵王温泉で流すもよし。でもここはあえて、サウナに入ってもう一汗、なんてのもリフレッシュにはもってこい。青々とした夏のグレンデを望む極上のサウナでゆっくりくつろぐ。一週間前の私、よくぞこの空間を見つけた、と思わず自分を褒めたくなるほどの贅沢がある。

蔵王温泉は、古くからお参りや湯治、観光などでこの地を訪れた方の共同浴場として栄えた温泉地。

そのまち並みは、歴史の面影と、どこか懐かしい情緒に満ちている。

温泉街をそぞろ歩く。それだけで、一日ずつといられるような場所だ。

あたりはすっかり暗くなった頃、夜の目的地は樹氷高原駅にあった。

そこには空を覆い尽くす星空。

見上げた先に、はつきりと天の川を見た。

一日の終わりに温泉に浸かりながら旅を振り返る。

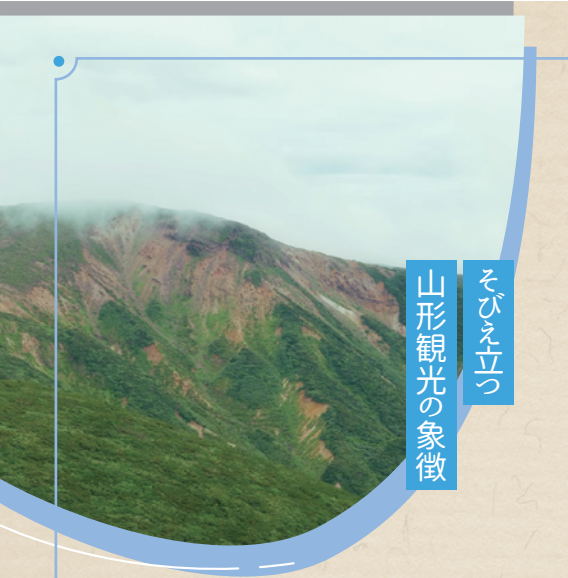
歩く、登る、見晴らす、感じる。

最後に、見上げた思い出で終わる旅。

夏の蔵王には、

スローでグリーンな

時間が流れていた。



山形観光の象徴

そびえ立つ

信仰の山 蔵王山

まず目の前に広がるのが、蔵王山です。古くから山岳信仰の対象として人々に大切にされてきました。「蔵王」という名前も、仏教の守護神である蔵王権現に由来すると言われています。つまりこの山は、登る山であり、拝む山でもあったんですね。

空気がどこか凜としているように感じるのは、標高の高さだけではなく、長い時間をかけて積み重ねられてきた折りの場所だからかもしれません。蔵王ロープウェイに乗ると、景色は一気に変わります。足元に広がるのは、ブナ林を中心とした深い緑のグラデーション。冬には雪に覆われて見えなかった山の起伏や森の奥行きが、はっきりと分かります。



〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉



静けさと水音

静かな時間 ドッコ沼

次にご案内するのが、ドッコ沼です。ここは、雪解け水や湧水が集まる場所で、一年を通して水が枯れることはありません。水辺に立つと、森を抜けてきた風が、ふっと肌をなでていきます。

立ち止まって、水の音を聞くだけで、気持ち自然と整っていく場所です。この周辺は、アップダウンの少ない散策コースになっていて、夏の蔵王を無理なく楽しめるエリアでもあります。

歩いたあとは、近くの SORAMADO cafe 1387 でひと休み。山並みを望むテラスで風にあたりながら過ごす時間も、ドッコ沼周辺ならではの魅力です。山形の食材を使ったメニューもあり、景色と一緒に楽しむことができます。



〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉スキー場 中央グレンデ

SORAMADO cafe 1387

color 02

夏の蔵王で COOL & HEAL

蔵王と聞くと、多くの方が思い浮かべるのは、雪景色や樹氷といった“冬の蔵王”かもしれません。

ですが、夏の蔵王は涼しさ・緑・静けさに包まれた、全く別の表情を見せてくれます。そんな「夏ならではの蔵王」を巡りましょう。

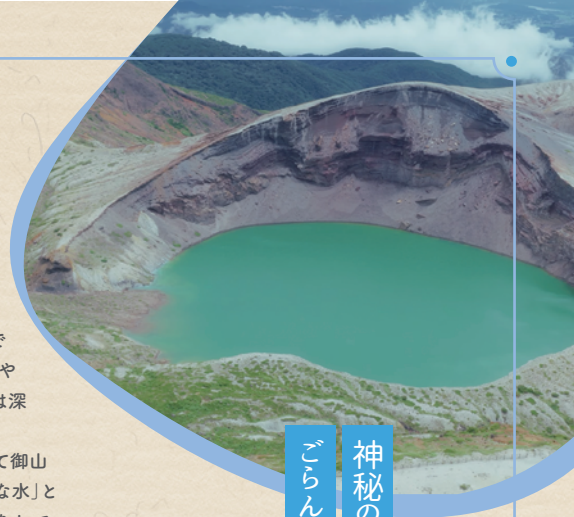
YAMAGATA CITY
10 DAYS
STORIES

御釜（おかま） 地球をのぞき込む場所

蔵王を代表する、御釜。

この湖は、火山活動によって生まれた火口湖です。エメラルドグリーンに見える湖面は、天候や光の加減によって、青にも、白っぽくも、時には深い緑にも色が変わります。

現在は水の近くは立ち入り禁止ですが、かつて御山詣りでは、この湖水を「身を清めるための清浄な水」と考え、御釜の水で身を清めてから山頂にお参りしていたそうです。



ごらんあれ

神秘の光景を

蔵王温泉 温泉街としての魅力

蔵王温泉は、古くから湯治場として栄えてきました。

この温泉は、共同浴場を中心に発展した温泉地です。つまり、みんなで使う温泉だったんですね。

温泉街を歩くと、どこか懐かしい雰囲気を感じます。建物の新しさよりも、積み重なった時間がこの場所の魅力になっています。

高湯通りを歩くと、湯けむりと硫黄泉の香りがふわりと漂い、それだけで体がゆるんでいくのを感じます。通り沿いには、土産物店や商店、カフェなどが点在し、気になる場所にふらりと立ち寄るのが、この街らしい楽しみ方です。

温泉に入り、また歩き、少し疲れたら足湯でひと休みする。目的地を決めすぎずに歩く。そんなそぞろ歩きが、蔵王温泉街にはよく似合います。



〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉

見上げて終わる一日

日が暮れたら、最後は夜の蔵王で星空を眺めませんか。

「山頂テラス」では、条件が良ければ、空いっぱいに星が広がります。街明かりが少ないため、天の川がはっきり見えることもあります。

樹氷高原駅の「百万人テラス」では、よりクリアな星空を眺めることができます。

一日の終わりに、ただ空を見上げるだけ。それだけで、「来てよかったな」と思える瞬間があります。



〒990-2301 山形県山形市蔵王山麓駅

輝く瞬間

視界いっぱい

ごゆっくり

ほっとする時間を

